

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域社会起業家論 Regional Social Entrepreneur		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	特になし	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ビジネス実務総論Ⅰ・Ⅱ、経済学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
技術戦略経営、ビジネスイノベーション論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館 2F (研究室4)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
世界には、地域経済の疲弊、貧困問題、環境破壊、子育てと仕事の両立などの社会問題が数多く存在しており、この解決のためにビジネスの手法を活用し、自ら収益事業を興すのが社会起業家であり、この事例研究をグループワークによるプレゼンテーションを通して学習しながら、社会問題を認識し、その問題解決手法である「起業」というビジネス・スキルを、ソーシャルビジネス、社会起業家事例研究、NPO法人マネジメント、BOPビジネスなどの学習から習得する。				
授業の目標				
①社会起業家とは何か、社会起業家のタイプと特徴、②事例研究(ソーシャルビジネス5選と社会起業家の仕事)、③事例研究(社会起業家のスキルとBOP・プロボノ)等の基礎知識を学習し、そのポイントを身につけられるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、地域社会起業家に精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果(学習成果)				
①「社会起業家とは何か」を第三者に説明することができる。 ②「社会起業家のタイプと特徴」を第三者に説明することができる。 ③「ソーシャルビジネス5選」を第三者に説明することができる。 ④「社会起業家全仕事」を第三者に説明することができる。 ⑤「社会起業家のスキルとBOP・プロボノ」を第三者に説明することができる。 ⑥1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)			
第2回目	学習の概要/ソーシャル・イノベーションとは/グループワーク準備			
第3回目	社会起業家とは/事例:バングラデシュ ムハマド・ユヌスのグラミン銀行			
第4回目	事例研究:(1)モデル1:外部資金活用型非営利ベンチャー/(2)モデル2:混合型非営利ベンチャー/(3)モデル3:ソーシャル・ビジネス・ベンチャー			
第5回目	事例研究:「成功する社会起業家」10の特徴/グループワークによるプレゼン(1)			
第6回目	事例研究:ソーシャルビジネス5選(1)・(2)			

第7回目	事例研究:ソーシャルビジネス5選(3)/グループワークによるプレゼン(2)		
第8回目	事例研究:「社会起業家全仕事2009/4/11」(1)・(2)		
第9回目	事例研究:「社会起業家全仕事2009/4/11」(3)/グループワークによるプレゼン(3)		
第10回目	山本 繁[NPO法人NEWVERY理事長]に学ぶ社会起業家への道(1)		
第11回目	山本 繁[NPO法人NEWVERY理事長]に学ぶ社会起業家への道(2)		
第12回目	山本 繁[NPO法人NEWVERY理事長]に学ぶ社会起業家への道(3)/グループワークによるプレゼン(4)		
第13回目	事例研究:BOP(“Base of the Pyramid” or “Bottom of the Pyramid”)ビジネスとは(1)		
第14回目	事例研究:BOP(“Base of the Pyramid” or “Bottom of the Pyramid”)ビジネスとは(2)/グループワークによるプレゼン(5)		
第15回目	事例研究:プロボノ(Pro bono:各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	10%	以下の3点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準:上記参加態度を全て満たす上位トップグループ。
	レポート	30%	Sのレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計4回提出予定(締切は各月末)。
	調査報告書		
	小テスト	40%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価:①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
	試験		
	発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
	その他		上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書			
長江庸泰作成の“デジタルテキスト[地域社会起業家論 2014年度版]”を活用する。			
履修上の留意点・ルール			
本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自立した学習法」を常に心掛けましょう。			